

# 26年2月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 1月20日 ~ 26年2月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
2月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight.D.I.

品目	26/2月	3月	4月	
入荷動向	スギ	50.0	33.3	33.3
	ヒノキ	25.0	25.0	25.0
	カラマツ	50.0	16.7	16.7
	トドマツ	50.0	50.0	50.0
消費動向	スギ	33.3	20.0	40.0
	ヒノキ	0.0	0.0	25.0
	カラマツ	16.7	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	66.7	33.3	50.0
	ヒノキ	50.0	50.0	50.0
	カラマツ	33.3	0.0	16.7
	トドマツ	0.0	50.0	50.0

スギ、ヒノキ及びカラマツ原木の入荷は減少傾向で推移、トドマツは増加傾向で推移。

スギ原木の消費は2月の減少が4月に向け増加に、ヒノキは2,3月の横ばいが4月には増加に、カラマツは2月の減少が3,4月は横ばいに、トドマツは横ばいで推移。

スギ及びヒノキの原木在庫は減少傾向で推移、カラマツは2月の減少が3月の横ばいを経て4月には減少に、トドマツは2月の横ばいが3,4月には増加に。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight.D.I.

品目	26/2月	3月	4月
スギ	83.3	50.0	16.7
ヒノキ	50.0	25.0	0.0
カラマツ	83.3	50.0	33.3
米マツ	100.0	50.0	75.0
北洋カラマツ	100.0	75.0	75.0
その他	100.0	100.0	100.0

スギ、カラマツ、米マツ及び北洋カラマツ原木の購入価格はいずれも強含みないし強保合で推移、ヒノキは2,3月の強含みないし強保合が4月には横ばいに。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・入荷は、1月後半より増えているが予定数量より少ない、2月は国有林の請負が終わり私有林の伐採が増えてくる見込み。消費は、2月も工場はフル生産、国産材も順調に消費予定。在庫はスギが1月の入荷少なくて在庫大幅減、ヒノキは、消費量並みに入荷した、在庫横ばい。
- ・原木入荷は全樹種とも大幅に減少、特にスギ材が減少。消費量は計画的に対処。在庫は減少状況継続。
- ・スギ及びカラマツ原木は入荷の遅れ・減少、消費は入荷遅れにより減少、入荷分は消化。輸入単板及び輸入原木にシフトしている。国産材全体に在庫は少ない。
- ・カラマツ、トドマツ原木が思うように入っていない。
- ・スギ丸太は消費に追いつかず。

(原木価格)

- ・スギ：製材用原木は下がっているが、合板用原木は一部輸出用に向けられているため量が確保できない。量を増やす為には価格を上げないと集まらない。ヒノキ；出材増加した為市場価格は大幅に下げているが合板用は在庫増加したい為横ばい。外材；産地在庫少ないため価格上昇。
- ・原木購入価格は全体的に値上がり、価格上昇するも納材量が伴わず、供給減。
- ・国産のスギ及びカラマツ原木は多少の値上げ、北洋カラマツは商社に依頼するも、なかなか入らず値段も上がっている。

## 26年2月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
生産動向	構造用(9mm)	33.3	0.0	0.0
	" (12mm)	14.3	0.0	0.0
	" (15mm)	16.7	16.7	16.7
	" (24mm)	14.3	14.3	14.3
	" (28mm)	0.0	33.3	33.3
出荷動向	構造用(9mm)	33.3	0.0	0.0
	" (12mm)	14.3	0.0	14.3
	" (15mm)	0.0	0.0	16.7
	" (24mm)	57.1	14.3	0.0
	" (28mm)	33.3	16.7	0.0
在庫動向	構造用(9mm)	66.7	16.7	16.7
	" (12mm)	57.1	28.6	14.3
	" (15mm)	50.0	16.7	16.7
	" (24mm)	71.4	28.6	28.6
	" (28mm)	57.1	14.3	14.3

9mm及び12mmの生産は2月の減少が3,4月は横ばいに、15mmは2月の減少が3,4月には増加に、24mmは増加傾向で推移、28mmは2月の横ばいが3,4月には増加に。

9mmの出荷は2月の増加が3,4月には横ばいに、12mmは2月の増加が4月に向け減少に、15mmは2,3月の横ばいが4月は減少に、24mm及び28mmは2,3月の増加が4月には横ばいに。

在庫動向は、全て減少傾向で推移。

## (2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/2月	3月	4月
構造用(9mm)	66.7	50.0	16.7
" (12mm)	57.1	42.9	14.3
" (15mm)	42.9	28.6	0.0
" (24mm)	57.1	57.1	14.3
" (28mm)	42.9	28.6	0.0

合板出荷価格は、9mm、12mm及び24mmが強含みないし強保合で推移、15mm及び28mmが2,3月の強含みないし強保合が4月には横ばいに。

## モニターからのコメント

## (合板荷動き)

- ・生産は常にフル生産、生産した分を出荷するのみ、出荷が順調に行けば在庫は横ばい。
- ・通常の生産体制、樹種毎の納材量の関係で切り替えが多い。出荷は全製品サネ加工品が増加傾向、トラックの配車が非常に困難な状況続く。在庫は全般的に減少しており、出荷遅れ気味。
- ・先月に比べ全体に生産減、中でも生産性悪い9mm、28mmは減。9mm、24mmは生産以上に出荷、12mm、15mmの出荷は先月並、28mmは生産減も出荷は、ほぼ横ばい。在庫は12mm、15mmはほぼ横ばい、9mmは生産減、出荷増により減少、28mmは生産減、出荷横ばいで減少、24mmは出荷多い分、在庫は減少。
- ・在庫無く納期に追われた生産になっている。生産量イコール出荷量。在庫のない状態が暫く続きそう。
- ・フル生産だが、冬期で、稼働日数も少なく生産は自然減。引き合いが強い。

## (合板価格)

- ・原木価格高騰の影響が3月以降に出る。
- ・原料、物流等コスト高になっているが、未だ、希望価格までは修正されていない状況。
- ・2月より全品目を値上げ。
- ・高値安定。
- ・主原料だけでなく副資材及び運賃アップに伴いコストアップ。